

授業科目等の概要

(医療関係専門課程(臨床検査科)) 2021年度 入学者まで																
必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			倫理学	コンプライアンスを含め医療における倫理について考え、その歴史から倫理の重要性と現代医療人としての資質の涵養を図る。	1・前期	20	1	○			○			○		
○			心理学	HIV検査相談についての講義やグループワークを通して、受検者や陽性者の心理、経過、支援を学ぶ。心理学の各分野を概論的に学ぶ。	2・後期	20	1	○			○				○	
○			社会学	医療従事者、社会人になるにあたっての社会的知識を学ぶ。医療の歴史、医療組織、医療法など医学全般的に学ぶ。	1・後期	20	1	○			○			○		
○			法学	法 の概念及び医療関係法規を中心に学ぶ、特に臨床検査に関する法律に国家試験に言及する。	2・前期	20	1	○			○			○		
○			数学	統計学の基本的な考え方を理解し、データ解析のための適切な方法の習得を目的とする。	1・前期	30	1	○			○				○	
○			物理学	「光のはなし」を中心にしながら、身の回りの出来事を解説する。	1・後期	30	1	○			○				○	
○			生物	生物学の知識を整理することにより、高校で学んだ生物学をより深く理解する。	1・前期	30	1	○			○				○	
○			化学	臨床検査技師教育に必須の「生化学」「化学分析」「化学分析検査学」などを学ぶために必要な基礎知識を習得することを目的とする。	1・前後	60	2	○			○				○	
○			英語	臨床現場で用いられる医用英語の基礎を学ぶ。	1・前後	60	2	○			○				○	
○			医用英語	医療現場で使われる医療用語を学ぶ。	2・前期	30	1	○			○				○	
○			保健体育	身体運動の効果や実践方法を学び、生活習慣病予防をはじめとして健康の保持増進に役立つことを理解するだけでなく、自己管理能力を習得する。	1・前期	20	1	○			○				○	

○		保健体育	運動を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。	2・前期	30	1	○						○	○			
○		解剖学	人体の正常な基礎構造について理解を深める。	1・前後	60	2	○					○					○
○		解剖学	人体の正常な基礎構造について理解を深める。	3・後期	30	1					○	○	○				○
○		生理学	人体の機能とは何かを具体的に知る。	1・前後	60	2	○					○					○
○		生理学	動物機能、神経総論、中枢神経、末梢神経、感覚器、運動器について学び、生理学全体のまとめを行う。	3・後期	20	1	○					○					○
○		生化学	医学に必要な生命現象を理解する。生命の基本単位である細胞レベルでの代謝や、個体が恒常性を維持する体系を理解し、疾患の発生機序を理解する。	1・前後	60	2	○					○					○
○		生化学	1年次に学んだことをもとに、国家試験対策として過去の国家試験問題を中心に解説する。	3・後期	20	1	○					○					○
○		病理学	臓器ごとの疾患ではなく、共通する基本的な病態ごとに、その病理学的変化を学ぶ。	1・後期	30	1	○					○					○
○		微生物学	微生物の形態、生理と機能など基礎的な分野を学び理解する。微生物と環境・人との関わりを学ぶ。	1・前期	30	1	○					○					○
○		血液学	血液疾患の病態を理解するための基礎知識の習得。および、血液検査の概要と日常診療におけるその重要性を理解する。	1・後期	30	1	○					○					○
○		免疫学	免疫学を理解するのに必要な生化学・分子生物学と基礎疫学の習得	1・後期	30	1	○					○				○	
○		実験動物	実験動物の種類、解剖、生理、繁殖などの生物学的テーマの他、実験動物の疾病や実験従事者への動物由来感染症などの微生物学的課題、ならびに各種実験手技の動物への適用およびその際に必要な倫理的課題について学ぶ。	1・前期	30	1	○					○					○
○		公衆衛生学	健康にとって望ましい環境の整備、健康の保持と積極的増進、疾病・傷害への対策、さらに社会福祉・社会保障制度を学ぶ	1・前後	40	2	○					○					○
○		公衆衛生学	微生物学実習などで学んだ検査手法を基に、水質検査及び直品検査の中で最も基本的で重要な一般生菌数測定、大腸菌検査、残留塩素測定、大腸菌群数測定の実習を行う。	3・後期	30	1						○	○				○

○		免疫検査学	抗原抗体反応の知識を实践で体験し、生体内防御の機構を理解する。免疫化学分析法等の各検査法の原理、留意点を掌握し、基礎実習から応用までを体得する。	2・前期	60	2				○	○		○				
○		輸血移植検査学	交差適合試験医における不適合の場合の対応の仕方・免疫同種抗体の同定法の技術の習得。輸血反応を通じ、補体の知識を習得。自己免疫疾患の種類と検査法を習得。など	2・後期	30	1				○	○						○
○		輸血移植検査学	安全で適正な輸血療法がサポートできるように、輸血検査の基本操作のポイント・考え方を習得する。輸血移植検査学及び免疫検査学の国家試験問題を分野毎にまとめ解説する。	3・後期	20	1	○				○						○
○		臨床生理検査学	心電図の基礎知識を習得する。筋電図検査・末梢神経伝導検査の基礎の習得を目指す。	1・後期	30	1	○				○			○			
○		臨床生理検査学	心電図の基礎の復習と確認、知識を深める。異常心電図波形についての知識と理解を深める。脳の仕組みと脳波の基本的事項について理解する。	2・前後	60	2	○				○			○			
○		臨床生理検査学	心電計の構成や医用電気機器設備の安全管理について学ぶ。心電図測定の手技と被検者への対応の習得を目指す。医療現場での脳波の取り方と判読を習得する。	2・前後	90	3				○	○	△		○	○		△
○		臨床生理検査学	臨床生理検査の総復習。国家試験対策。	3・後期	50	1	○			○	○			○			
○		画像検査学	超音波に必要な基礎知識と技術を習得する。	2・後期	30	1				○	○						○
○		画像検査学	画像検査学の総復習。国家試験対策。	3・後期	20	1	○				○			○			
○		臨床検査総論	一般検査の基本的な手技と検体の取り扱い方について学ぶ。	1・前期	30	1	○				○			○			
○		検査機器総論	検査に必要な機器や装置に関する基礎的な知識の習得を目的とする。機器や装置に触れることにより、原理や構造の理解を深め、保守管理を含めた正しい取り扱いを習得する。	1・前期	20	1	○				○			○			
○		検査管理総論	医療施設における検査室の役割や業務内容、及び医療における検査情報の重要性を理解する。	2・後期	20	1	○				○			○			
○		検査管理総論	1, 2年次における検査総論、検査管理総論の再復習を目的とし、模擬試験、過去の国家試験問題の解説を行う。	3・後期	20	1	○				○			○			
○		情報処理技術	数式や基本的な関数の作成、セルの書式設定、グラフ作成などExcelの基本的な操作を理解する。	1・前期	30	1				○	○						○

○		検査技術学演習	基本的なビジネス文書作成方法やマナーを知り、効率的な文書作成を目指し演習を行う。	1・後期	20	1		△	○	○			○
○		検査技術学演習	1, 2年の知識を生かし、国家試験対策を行う。	3・後期	20	1	○			○		○	○
○		薬理学	科学的根拠に基づいた保健機能食品に関する理解、食品と医薬品の違い、その相互作用を正確に理解し判断する能力を習得する。	2・後期	20	1	○			○			○
○		医療安全管理学	臨床検査技師の責任及び業務の範囲を理解し、感染管理及び医療安全に配慮して、適切に検体採取ができる能力を身につける。検体採取に伴う危険因子を認識し、合併症の発生時に適切に対処できる能力を身につける。	2・後期	20	1	○			○		○	
○		臨地実習	学外の病院で長期に渡り実習を行うことにより、臨床検査技師の仕事を深く理解し、チーム医療の重要性の理解と将来の検査技師像を描くことを目的とする	3・前期	360	8				○		○	○ ○
合計		46科目			2915単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1) 本校の所定の教育課程を履修し、その科目をすべて修得していること。		1 学年の学期区分	2期
2) 所定期日までに学納金を完納していること。		1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。